

結成60周年を迎えて

金属労協（JCM）は、2024年5月に結成60周年という節目の年を迎えることができました。これまでお支えいただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

さて当時を少し振り返りますと、1964年5月に4産別・2組合、47万人の金属産業に集う仲間が結集し、IMF-JC（現JCM）を結成するに至りました。ちょうどこの年は、日本がIMF（国際通貨基金）8条国に移行し、そしてOECDにも正式に加盟する等、自由経済体制の先進国に仲間入りを果たした年でした。資本の自由化が求められる中、民間企業では国際競争に耐えうる体質改善を図ってきており、労働界としてもそれに備え、国際連帯の強化と国際的に見劣りしない労働条件の向上が求められていた時期にありました。こうした社会的背景のもと、日本の基幹産業である金属労組としても同様の課題意識に鑑み、大同団結の必要性を痛感し、当時分散していたナショナルセンターの枠を超えて結集したわけです。現在の連合の結成が1989年ですから、いかに我々金属労組の先輩方々の先見性と行動力があったのかと、あらためて敬服する次第です。

そして翻って現在に目を転じますと、本年2024年時点では、5産別、200万人の規模にまで組織を拡大するに至り、非常に多くの仲間たちに支えられ、そしてともに歩みを進める存在となりました。この60年間で時代も変化し、当時のIMF（国際金属労連）も2012年にインダストリアル・グローバルユニオンに組織統合し、国内外での我々金属労協の関わる領域も広がり、求められる役割も高まっていると感じています。インダストリアル・グローバルユニオンの結成以来、歴代の金属労協議長は世界の副会長の末席に名を連ね、また、アジア・太平洋地域の共同議長の職も務めてきました。それは、日本、金属労協として海外、とりわけアジア・太平洋地域の仲間たちの幸福のために貢献することが強く求められているからだとして認識しています。

また国内においても、200万人の規模に相応しい労働運動のけん引役として、また日本の基幹産業として、日本経済・社会に寄与する当事者としての役割

が期待されているものと認識しています。こうした期待に見合う活動ができているのかどうかの判断は皆さんに委ねることとしますが、まだ記憶に新しい2024年闘争を例にとりますと、「今次闘争は我々金属労協がけん引するんだ！」との気概のもと加盟5産別とともに取り組み、組織内外に対して一定の役割は果たせたのではないかと考えている次第です。私たちは、闘争に限らずこうした意思をあらゆる活動の中に込めながら、JC運動の推進にあたっているという点はどうかご理解いただければと思います。

現在の金属産業は、DXやGXといった将来に向けた大きな変革期に直面しており、また日本の急速な高齢化や人口減少社会の進行などとも相まって、私たちを取り巻く環境の変化は大変激しくなっています。金属産業が今後も日本で競争力を磨きながら、ものづくりを続け、雇用を維持・創出していくためには、現実を直視し果敢に行動していく必要があります。金属労協に集う200万人の仲間の英知を結集し、ともに乗り越えていきたいと思っています。

人間でいえば還暦にあたる60周年というこの節目を契機に、あらためて世界中のインダストリアル・ユニオンの仲間と連帯を深めてまいります。そして、“JC共闘”という言葉に象徴されます加盟5産別との深い信頼と強固な連携のもと、金属産業で働く全国の仲間のための運動を推し進め、役割と責任をしっかりと果たしてまいる所存です。あらためて皆さまに感謝の意を表しますとともに、今後とも金属労協に対する変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。



金属労協 議長
金子 晃浩

JCM 結成60周年へのメッセージ

インダストリアル・グローバルユニオンを代表して、JCM結成60周年に心からのお祝いを申し上げます。JCMは創設以来、旧国際金属労連（IMF）の時代から現在のインダストリアルに至るまで、アジア太平洋地域で指導的組合として多大な貢献をし、極めて重要な役割を果たしてこられました。JCMの皆様が、平和、民主主義、そして基本的な労働者の権利の確保に向けて、グローバルな連帯と協力に注力している私たちインダストリオールのアクションプランを全面的にご支援いただいていることに、改めて感謝申し上げます。

世界中の労働者が、グローバルな民主主義の危機や進行中の気候危機など、一連の危機に晒されています。グローバル化が幅広い繁栄をもたらさなかった結果、ポピュリスト・ナショナリズムが復活し、私たちは分裂と戦争に脅かされています。どの危機においても、労働者は生活水準の低下という代償を払われています。

一方、ディーセント・ワークを促進する労働組合運動を取り巻く状況は、多くの国々で悪化しています。私たちは独立した民主的な組合を支援し続け、労働者の権利と民主主義を守るためにともに行動を起こさなければなりません。

鉱業、エネルギーおよび製造業部門の組合員は、急速な

デジタル変革とエネルギー変革に起因する新たな課題にも直面しています。私たちは組合として、労働環境を急速に変化させている新しい技術や働き方の変革に対応するためにも、労働者による公正な移行を実現できるように努めなければなりません。JCMの進歩的な経験は、グローバルサウスとグローバルノースの間での組合協力を強化します。そして、さまざまな多国籍企業を巻き込んだ変わりゆくサプライチェーンにおいて、部門の垣根を越えた組織化戦略を発展させていくであろうと私は信じています。

私たちは、すべての労働者にとって持続可能な未来を心待ちにしています。引き続き協力しながら国際連帯を促進し、すべての場所で労働者の権利が尊重、保護、実現される世界をめざして努力しようではありませんか。JCMが今後ともインダストリオールの活動で極めて重要な役割を果たしていくことを私は確信しています。

連帯をこめて

インダストリアル・グローバルユニオン
書記長 アトレ・ホイエ



JCM 結成60周年に寄せて

全日本金属産業労働組合協議会（JCM）結成60周年を心よりお慶び申し上げます。

アジアで初となる東京オリンピックの開催で沸き立ち、高度経済成長の真っただ中に、先達のご英断によって日本経済の中核を担う産業の労働者が大同団結され、その営みとして60年の歳月を数えてこられました。この間、その運動を支えてこられたすべての歴代役員の皆様のご苦勞とJCMの旗の下に結集された組合員お一人おひとりの思いがつながり迎えられる節目に、衷心より敬意を表します。

JCMの歩みは、戦後の日本経済の歩みと言っても過言ではなく、高度経済成長を支えるメインプレイヤーとして日本経済をけん引してこられました。その道程は、必ずしも働く者にとって平坦な道のりではなく、職場で懸命に努力する組合員の思いが集まり、労働組合として様々な変革を積み重ねられてきました。その取り組みは、まさに日本の雇用慣行や労働法制の基礎となりました。

60年を経て、働く者を取り巻く環境は大きく変化しました。近年のデジタル・トランスフォーメーションの進展に

よる事業の大変革やカーボン・ニュートラルによる環境問題への対応など、その影響は多大なものとなっています。このような時代の中で、企業の持続的成長と労働者の雇用を守り、充実した職業人生となるよう支えていくことは、困難を伴うことであろうかと思いますが、60年にわたって歩み続けてきた確かな実績とそれに裏打ちされた健全な労使関係を今後も大切にいただき、未来に向かってこれからも力強く歩みを続けていただくことを大いに期待しております。

JCMの今後ますますのご発展を祈念し、すべての加盟組織のご繁栄と組合員の皆様により一層のご活躍を心よりご期待申し上げ、60周年に寄せるお祝いの言葉とさせていただきます。

日本労働組合総連合会（連合）
会長 芳野友子

